

今週の相場はどうなる？ 今週の相場はどうなる？

作成者：山根亜希子

○10月14日～

先週は強い米国の指標に支えられてドル高の動きとなりました。

米国のインフレはおさまりつつありますが予想よりは緩やかな物価下落となり、早急に利下げを急ぐ必要はないという声が出ています。

今の雇用環境やインフレ率を見ると先月に大幅な利下げを行ったこともあり、次回の利下げは大幅利下げになる確率は低いと思います。

ただし、金利が高い水準にあるため住宅ローンや色々な面で経済にマイナスに働いている面もあり、高金利の状態が長引けば急速に景気が冷え込む可能性はあります。

日本は石破首相になって、首相の発言が過去のものや逆だったり、政策面でははっきりした方向性がわかりにくいため相場が右往左往していましたが、経済については岸田内閣の延長という感じなので、落ち着いてくると思います。

先週のドル／円は 147 円台を維持し、149 円台まで値を伸ばしましたが 150 円を超えての円安トライの動きにはなりませんでした。

米国の大統領選が 11 月初めと近づいてきましたが日本も今月の終わりに衆議院の解散選挙があるため政治関連のニュースにも注意がいります。

また、米国では大型ハリケーンの被害がひどく、経済指標にも災害の影響が出てくるかもしれません。株価などが高値圏にあるためリスク回避の動きが強く出れば大きく下がる可能性もあるため注意が必要です。

先週、NY ダウと S&P500 が最高値更新となり、日経平均、ドル／円ともに高値圏にあります。

日本株は衆議院が解散してから投票日までの間は上がりやすいという傾向がありますが海外要因で下がることも想定して、楽観的な相場が続くかどうかを見ていきたいです。

中国が預金準備率を下げたり、政策金利を下げたりと景気を支えるために金融緩和を発表したことで中国株も跳ね上がりましたが中国経済が再び浮上してくるのかわかりません。

次は財政出動に期待がかかっていますが想定していたよりも規模が小さいと失望に変わるかもしれません。中国の住宅バブル崩壊の影響はかなり深刻な状況です。

本格的な中国の景気回復は、まだ時間がかかると考えておいた方がよさそうです。

そして、欧州ですが今週は ECB で政策金利の発表があります。

予想では 0.25% の利下げとなっているためユーロにとっては逆風になるかもしれません。

月曜は日本も祝日ですが米国もコロンブス・デーで祝日となっています。

● テクニカルで見た重要ポイントは？

今週の相場はどうなる？ 今週の相場はどうなる？

<ドル/円>

ドル/円は149円台前半まで値を伸ばしてきました。

8月初めの暴落後の戻りのレートあたりまで戻してきました。

次は150円がターゲットになりますが150円を超えてくると日銀が為替レートに関してけん制のコメントを出してくる可能性があります。

150円超での買いは様子見がいいかもしれません。

下値は、147.3円を割り込むと146円あたりのサポートが意識されます。

145円台を維持している間は堅調な動きが期待できそうですが145円を割り込む動きが出ると円高リスクが再び出てきそうです。

<気になるクロス円>

クロス円は多くのペアで上値が重くなってきました。

先週は動きが少なく、停滞しているペアが多く、無理にポジションを持つより、次の動きを待った方がいいかもしれません。

ドル/円、株価などが下落してくると下がってくる可能性もあり、安値更新の動きが出たら売りを狙ってみるのもいいかもしれません。

ランドは9月に入ってから強い動きが続いており、週足でも陽線が続いています。

少し下げれば、押し目買いを狙ってみてもいいかもしれません。

*クロス円とは円との通貨ペアの総称:〇〇/円というような通貨ペアのことです。

<今週のファンダメンタル？>

日本では8月機械受注、9月貿易統計、9月全国消費者物価指数などがあります。

米国では10月ニューヨーク連銀製造業景気指数、9月小売売上高、10月フィラデルフィア連銀製造業景気指数、前週分新規失業保険申請件数、9月鉱工業生産、10月NAHB住宅市場指数、8月対米証券投資、9月住宅着工件数などが発表されます。

欧州ではドイツとユーロ圏で10月ZEW景況感調査、ユーロ圏で8月鉱工業生産、9月消費者物価指数、ECB(欧州中央銀行)政策金利発表、ラガルド・ECB 総裁定例会見などがあります。

ほかにはカナダと英国で9月消費者物価指数、中国で7-9月期GDPの発表などがあります。